遠3
672
2

門へ遠13
號472
巻2

あつて男舎ゑぐる用ひ。かさるゝぬ。此恩ふ。
去ゝど。此れも好ゝぬまゑ。江戸へ出ゝ。
たゆ。責てかゝーの此恩ふ。食樂ゑゝと
多級ありと。書所潤ゝの。婦人ゝ
江戸へ出。好手ゆて。薬さゑゝ。
病。人多入のゝひ薬ゑ。今ゝゑ
ゝる。ゝど。金の入る。此薬治。ごゑんぐゝ。此時と
ゝゝゑゝゑゝゑゝど。好事ぬものゝ。金のゝ

不仮ちがらも。妹をを賣て孝ぎ。ぱくいと
思ひて居ても。親子のうちさ。婚と妹と
で。只夫二人ふ。酒ちを呑せるも。和をちぶ
絵ちあさふ。和を呑びて寝しへ。起ぎりふ
あ子ふて。いきの客子をたいぐうう
強ふ義理ある。妹のうち所へ。参ぶみ
ちとちうとも。金ち元ぐ出きちう。伊ちふ
さ夫のだち氏。親父のため。ぐうぞうくんで。ぐ

されと。強くいうを。無理ちもいうれぞ。ぎめて
伊ちふさ夫の。病気のうちへ。出ちるも知てど
あらう。[illegible]アイ大病で。却出ちんをるア。三浦やの
でい事さんちう。今ちくくちまきんちうれど
親父さんのいちをもちう。伊ちふさんあへ。母人
さんも。妹も一方あるぬ。伊あんちうぱちふいうん
義理のある。客人。それぞくふ伊ちんしてい
ゆもおらくせも。つとめくしへ。ぞんぐ

しふ。あるとい せうくとぷのうちで。おつてしく
のサ。伊三さんのうち。和父さんのたあ〜べ。ぐふぐ
して。あげうくおぢんを図 きくあげ。その了簡あ
あんあもいぐぶんいあひ。龍角人ハおんを悪と。おも
ハ和べ。よいすも身ふおうらぬ。きくあげこれうで
骨を折て。ほとあてくられ。おあげ中ハ。今おやあア
ぢを。ぢやの。大悪拵ぐ。ぐ和
も。あるちハが。鈍 季の一番や二ひハ。ちやげ

られて。ある法ら。親こをきが出恩をあく。伊三ぐ
さんの為と。和父ごも来ての。杉くあれべまア氏
人をを。きくさあうら。伊三ふさあ。おあげやうがよう
ら〜ト今の半ようとうおまふつぶ半でおくあ
きの紙ふつてこあるべのがよふこるべ 図 えれしあぐふ
実ふふあまる。おあぶ〜そんあふ氏今をを。和父さん
ふ 図 きこ〜もくあ。東上るがようら〜 図 おあうがくふ
おくあいもト。包の今を。初あふ口さ〜ゆうく
然さて。三出るかる。大金をさあでふも

井のめぐる風情。さげふよび出しの。あぬらん
あるべし。是ようの意ぞのいきらを。斧斤へ
まひぎ。稱〳〵と答意して後。かのみ十夜の
会をこそせし。ひとへふ伊ふ〳〵ぐ。ゐとのこ
おのひめ〳〵も。彼あふぬ身の。是脚もあ〳〵

○第四回

雪解て風新柳の。髻を洗ひ。氷消て。浪
蓋芳の。棹を搖る。夫の手色へ。とりわきて

街ふ。まさに彩雨や。あるん。慶とまよふ。ぢち
待く。後句の門松い。ひくの柳ふ對〳〵。幼
れ老の繁ひ。年まのた丈。ちい。菜盃の撮えふ
うぐ〳〵。見のねる松。ぞごのこのぞぐ〳〵て
い方遠ふ大きく。大思兼の名よせい後〳〵
の。思きをぞうト。穫て。ひ年納見。寺祢乐
の。尼外万寸い。ぞうト知せて仕と。年誠の
物い階子の半腰まで登り。内中の和孫を

集めて帰る。若孤不拘自己時かかるべき
茅屋なるとて皆くく悔れ至まぶる事男
の若ひ若い。別太の祝宴不関亀り蓋大たく
日数いおく〳〵ようて。その遠ひあり。耶いえび
事中行変やけと。祝て初と茅のうち。めん
日りの日の。うき名ひ。兵四月清俳六月の不二
の〳〵。遊若狭の。遠曲もあれど。余へ皆新
綱あぞ。仕主る。七月十三日茅布。若紀より

あて。ふ独の若初とを牲くを〳〵きあとあふ
大今ふぞゆづ主る形。ふふ茅主の若
ぞのい人伝主ぐ。仁仏の涙きを感ード。ぷ
十友の。全の大あんふ若びるひる。若界の分
〳〵人動のおるふ。初今産茅い。仲やの
皆孝ふ形い。借墨絵のふ仲ト若ぐまん
ぐ。絵紙物絵編伝書い絵の。絵ちんやん。牛
物多の茅。和紙いちるの。若彦ふめん

黒繻珀の毛皮合の裏。紐もあんまり古く
なく。紙へい柿の葉。ふり。[illegible]の[illegible]
川の。煙草へ村田の烟管。当世流行のやし
物を持ぎるいいろおもゆ。ゆらしく。江戸弁丈
二人引連。女義者

芳吉 芳吉 芳吉

蒲団のうくゝふ。ぐまつて居さうしぐ。ゑぞのぐあ
ありひまぐされ。孝 ゆめげ。あらんれ。此月中ひぐつ
き。ぐ。澄〳〵〳〵人。出物そふぐ子。まとん。あつぐ。うん
ぐ。猫で。つそろちやア。ぐ。の毒でちりやせんョ
ゑ 雲ふ。お勧いさ〳〵いちさ。せくろうを。痛ぐ。痛ん
で。ちろいせん。孝 そんちふ。あんざいのうまい。ぬ。ちて
凡を。ぬ。ぬんざうち。ぎいうん。要ん。を。ちふちるがいく
ゑ ぬ。ありぐさふ。ぬぐ。ぬいを。ト。ぬ。ぬだんぬり。ぬ。ぬ。

ちろ。せ。ちろ
ゑふ。脊中を。藤。せて。ぜ。ちう。いくう。ろ。ぬて。れ。ぬや
ゑ アイトいとゑぐ。ぬ。ぬ。ぬの
まく。ぬ。ぬて。ぬ。ぬ。ゑ ぬくせろちふいトをちつきをつきちんのちーの
ちふ。ぬ。ぬ。孝 ちつとさをちつて。あげやうのトいつても和ちのうちれぞ
だんまうあてあいさろちふきふ。おわくの病。ひ。き。も。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬきふくりてたををのをちぐら。おわくの病。ひ。き。も。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬもぐ。ぬりどいまを。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬうふ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

ぞうりを。おやらんの下へ。まてこうちゃでう。蚊を拭
さいとそうぞうきくうりを 晃 それ切て居る。宮の唱あんど
らす。病家のうす。ぐるーく家まも。竹のこうと
おもひ中ーが。和尚の宮。寺も和れぎれば。陳ら
ぬこのヤヤこのかうる名の。宮人ふ別保寺
おぎんせん。そやヤヤ彩のあく礼の。百まで。おぎ
ぎこのせう 孝 いうさる和尚のうりあれば。踏ーあるる

あうこもどくれど。それおやこうちゃ。いうるのぐのう
者。いうそく伊之さんが。男吉の彩父さんの玉。引
こうれて。所あるるうちも。友達のうりあれば。
ぎまて彩やーた。その竹ぐいおくの。母さんい嶽の
お浩さんと。いうきよ和。手和ふ居糸きうて。どふーさ
縁やう。伊之さんが。ぽんぐ実ふ世話をーて。やヤかー
さんの。彩ふうヤでも。そうこうへふ。おるくさんを
重て。まて。女ぐうふ吉さ和が。男吉ふ居るうち

たゝ〳〵もあつさ。おもくのうり。音と重さが。弟縁の
ものゝ。おのゝ木枕と揚の。どちらも捨て
らるぬ沢とあり。妹おもくあれ。義理のある妹の
ゆ。あゝ〳〵ゆ。仕切〳〵さと夫を苦労のあら
ぶら。病ひがちの〳〵て。大病とあり。宝あて
ものゝ。みらやうきゝ木まつさでおらうれ
ど。それい一番のおりてむき。兄弟又円相ホん
あく。あさうちへ。ぞ〳〵く。ゆ〳〵さおちくの者の

うへ。ぞく〳〵ホまつてもうんゑ和ゝて。やまのサ 花
その者ホ。ぬ〳〵がサ あけて。ゝておうんゑ せを
まんホ。婦〳〵うゆざアらを。つさい毋さんの。ホうら
もまつ芸ホたのり〳〵ひ。ゆ。ゑ〳〵の。ゑ の
ゆ。ゆ。出れもゆて上〳〵。さが。ぞ〳〵を一ゑゝ和目
ホ。ゑをゑい〳〵て。おりて。ゆ。ゆ。ゆ

おとんあんまふ。きこえ〳〵われてゆくこゝもと
うんなら。ちぶ。あつふ。おざかいさのサ。蛛のす
も。なでやうらら。きつてあせびこんあふ苦労をこと
いこしのせんとゝつて今ふまろちやア。義理が勢い
と。知りつてぞつも。おひ切まへせんも。ちんぞの身
で。おざかいむう。そしてゆこさんの。病まれ。まア
ちつとも。よう。おざかいきつく。ばしやア。いつそ義理
ぶ。あつふ。おざかいしそ。ちゝ〳〵。くらふ。ふ。おざかいさ

らうん。おんさんへ。形がけて。ぢうが。塩だちをいさ
しのさと。きこえ。孝。びつくりまそ。ひとりまそ。ふうそんまつふ。おちへい
ゆこさんのやうきん。さつちやう。おちへの。苑。ぞうら
しい。知ておりいを少。こんあふ苦労をいこしい
きョ。孝。ハテそれい。病気のくすり。その分の分のやうきい
苑。イヽエ。孝。それハトうおりて。苑。子。ぎふかゆひを
分のやうをトいへい。まつ。ちんで。おざかいをエ。ちゆく
きうせて。おとんあんし。孝。ぞつもいつて。きの毒ぐ

ちさげ。いさ移へぎやア。伊三さんの美ひの種ぞん
せろ移へろりア移へ。おぬらん推ふ〜てぞんふせへ
[光] をん程ぬ〜も。てうひて中出ちんまへ。アノ伊三
さんが。美〜ひろと。病ふうよくも。おぎまのせん
で動んでぞも。おー〜ちのちんー〜とぞふ仮ざんをへ
[孝] ちアをつさ。かとい。をつるるをいさー〜ゆ〜たト
笠ようふぞのハ。ウントだろふ。ふろへ。歯を
答ちぞろ。目をひぐき。足をふろせ。七猫

ぞろ。八倒。孝ゆふハ。影あらんと。美て周さの然
の膳を口ろ〜ちそ。ナぞんふ美せ。ちろり拘
きて。手を動せぞ。時を。ちる。ゆあて
美ぞのハ。ろとつる。たち喫ふんつき [光] すや
ぞいと〜いせろ移へ。猫恵〜そおんちん〜初めて
おおちん〜ちぞ。ぬ〜ふモウへ美で。おぎちへ
ちョ [孝] 五 猫へのるすぎのをぞろとも。ぞのぞる
るハぞ。ぞ〜さ。ん。きへをちふちぞふぞろと。

きを　ゆをもちなせ　【光】ナニもの　麻かよく　ちゃ　しゃ
ちゃんと。ぞうも　嗜　伊之さんのすが。　蟲　しゃ　ろてあ
つまのせんと。からぐを　長世　ろぐと。かさ　しゃ　ろ　ひ
　注　入　きき　ひ。人　用　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
　きを　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
　ぐ

あきらめて。美しき世の中ひ出せ日のあとゝ。一筆の
面白が。何より嬉しひ未来の。ちゝ産ゝ
ゝ。美しきものゝ多ゝ。あつさあらう。なまのよう
ぞつぞ。ゝ。ゝ。ゝ

○雖日もあらぶ。今日をも彰やかひ出ん。時人の。著でむとし。ありそう

[外題] ハイ歩迷で。ござう

まる

○第五回

文選廿九。古詩に云く。去者ハ日已ホ疎し。来者ハ日已ホ親しと。減ずるに孝ふ。花の

ものが。詳へ日々夜々ホ。通ひつゝて。伊そうが方

ホ。ありて内外の世話。信実ホあしくんべ。初

花をまどわ。花ホ。花咲ホ。あるまで。孝ふ

が。惻隱のムホ。ぎつゝ。仁信の恵を。養ひつ

ゝ。ものせぬ日ハ。あるりくり。養山の。雷を石を穿

彈極の。絃幹を。引の理り。保き情と義

理づめホ。義ぞのも。いつとなく。孝ふが

ムホ。身をあらせんる。ムうホあるしも。偏ホ人情

の。然らしむるホあり。初ハ義ぞのハ。伊そうが

義を。ハて。一向然備あし。今ハ我異撃自

何ぞせん。こゝに捨てた人の眞樣をも祈らゞ
なやと。朝ふ夕れを知ひ人れども。情なきうざる
身ふ。絵ゑかくく淡い。花の色增せども。心なき
清き。菩提の座ぼく 煩悩の志念義動
きくき。身あふ絵ど。孝ひ心が美人の情ごろよ
余ふ。身ふ濡れて。あひの火を胸ふ生れ。これ
ふ。涙の墨沈ふ。入るがめく。よんごろ
次第あり。夜一刻。價千金の義思も

川四つの折本とゝめふ。驚うせて。ふうがりそた
実の原 冤モシイ縁とゝ人のア。行ふ
まア。紙ぶうて。ありいもものう。新くせんえで。をざ
アちを絵く。ぶうて。ぬしや。家初ゝらのうを絵
て。ふかちんをゆく。ぶんごうきゑぬふぶ。ふをくみ
ふん実ふまる。富が。あうふ。それ大ふる
だらうト。ふうてふ。あん。ふうが。ふゝ。ふゝト
とゝいゝ。ふぶゝ。かうふぶうとゞうて

おやんちゃをあ〜孝ハテそアア。おくのムスあるゝ
ろくさ。ぴくらろちがぴ。おやゝ。おろくさそ。ちのせん
おゝぞぬ。おろきもちざ。角悔ゝ。がまんぎら
でも。おくと見て。来嬉悔せちゆ。おゝとゝ
えちらぴゝや歌同ちのろる。ちゆできも
じアア。おくゝ。見。ろちく。おくぞんるがあゝ
ぬ〜ふんゝるろま。常人ハちんよ。おぞアゝ
せんヨ孝ちんでも。英弱業ゝら罪が泳く。ぴさん

の。ちろくさも無い。おくヨ。見。もゝく。そのことアは
て。おゝんゝ〜。ちゆ。いやでおぞアゝを。孝トハゝ
りの。ゝ〜ひろゝと。ぴゝ。ぴさんが義生て。そく。ちさ
ら。おゝしゝら〜。見。この時ア。あゝそづしさま。孝。嘘
をぴく。ろサ。見。ヒサちんのろさんを。今ゝたくい
ちさものが。毒とちる法もあれ。ぬ〜しのろす。ろら
私ゝ〜いるゆ。厭ゝせん。濡ゝとろひちんせゝが
孤。モシ。ちれく。ちさを。すゝ。気ちざとおゝて。せゝを

まておやこんちんし 孝 こうちゅう。女ぞくふまるまぐ
りのを。世話をまゝ後へで。こうまるめんう 羌 めーのこと
を。羌山さんをどめ。羌咲さんも。うそまゝ実ぞ。あん
ま。母ーしい家人い。おぞやいせん。屠糸ぞまゝ
ーちゃア。りんふ月うあさやいもト。ちんーつらーく
いうまくを。モシ。ちんてどのぴちんをクト。月ひる
ーて。苦ふあるをいを 孝 ちんちふいるのい。腋
の絃切てをどめてたうう。ちんぞう意味が悪うう

てぞんらんふさのう。あやあさまるのう。ひもちがるんふ
ふうて。羌のやうふ。おひひやを 羌 そまやア。こうちが
こうぞんをぞーてこんな。羌ふるアいーさうちぐ
ものぶ。よふ。ふいせんでたぐ。ぬーのるうだう。智う
を 孝 そんるうをぷつちゃア人ふ。羌を。揺せるる羅
ふるるふ 羌 ぞつもこれが。ふうぞう。熱ちんでおぞやい
をト。決膠の契。金石の盟ひ。連理の柯。ひょく
の香も。ぞうるふ月ふ。中そぞ。ふふるる

あ〜鳴仲一言をかつて。邦を興し。一言をもつて邦
を亡さん。娼客の。對間より出る。古語多く
笑ふ夜来て。美麗なる。おもしろい。周り山の
もの。赤至宮 里通 そつさしどの。浮織ちりめの
小袖。かさね。うづら形の大和橋。金襴山ずの
茅。銀のゆもだりの烟管。胡桃の指輪を。織
出し。あついさの。提燈茶入。南世流行ふ。みられ
ぬと。いふ。ぶ十ぶんあるひ入る。時〜あるな

ゑをして。膝の先で。茶子をパチリ〜。いうせる
癖へ。あひ和競家と。ふくる風俗。庵のうへふ
あげあづら。金方の。ゆうを。後ろ白ふ白眼て
コレ苦げへざの。酸げへざのトあつな。秋立を。並べて
ゆ。お宮さまの。お口ふあい行くけアやア。ふく半で
下て。仕舞ハイ。化りの。重箱で。重食をつ〜。時分
ふのうあつトうちやアぐて。癖が。痛くも。ゆ〜ぐ。
うぬぐゆうな。面で。癖ぐあアやア。おろゆ〜の。粉で

食物が。出来らァ。さうも行く。元日の明方ふ。出
様を。おいらいあせくトト食べでおうさんふ。給仕
をさせて。雑煮を喰ふ。様のむうへ。引うのふ
出る年玉の目録を。ろ西ふ。貸おヤの。僅僅
を。礼をまで。祝てくるさろも。大名ひご。金ゲけで
ケーらくさ。正月の。後名ふ。米金。拝の。ふ。附ふ。後
方へきて。孫ちがら。揚屋丁の。遊ゆやへ。清明判
の。金不でくらげへもろ。金をがらーい。家出ーの

ゆふア。強の。行先の。方角をろる。男ふ。ろるひ
星。結を。屋て。反坪の。稼ぎ吉をーー。茶やろ
まるが。かろくら。ろ。ろるて。後を。白て。揚屋ろ
と。婦。ゆくふの。敵くるまで。分。ものの。義。で。ろろ
ある。男。銭。さるが。ろろも。行く。出およ。世人の。行へ。ゆーーの。ろざんを。ろら。行ものる
ま。あけて。ア。ろんを。ろ。ろやろト。強を。おを。ろんー
ちろア。日比。おろ。ろんを。ろるが。ろんを。雲で。おがろ。

まゝ孫。ようんべナウホ一ウ。おまふ入ら弦くるすぐ
いゝくろて。ぬゝも釧津で。おかちんをるす。それふ
何もちの要ふ。孤をおろゝセちんをるす。おぐまい
ぜん。ぬゝへぬぐちのるす。おぐまいをくら。まゝ
ぬゝのとら。まふへゝ行くとら。靜ふろて。おちんちん
ぜべ。ふもちもようゝおぐまいをたとく孤を。おろをせ
ちんしたろて。ぬゝしのろぐんをくら。孤ひ
いぜん。それど。それしゃ。おんちりおぐゝちんで。おぐ

アちもト。鏈の表。舟をとせて。流ぐんぐつもり。まれ
ぐも。ふの肉ぐん。角ってあるくらが苦畏をるぐ
【ア】そんいふ。ちゝら。まの要ふ。ぐめろらぴら
つくゝ。ちくぐおれも。ん角ふ膳ハ主ぬく。ちんぐろおし
ろ。おじくいて要ふされる要で。行ろら解らぬト
ぐぐあの。ちを手乐ぐん。おてろろてぐゃゝくゝトある
【ア】あんちろ。ふあまふ。ちいゝて遠。我修もヤちんを
のサ。おちふ中の表ちぐ。ようとまぐ

恥ぢんで。おぢやまいせ〜 [四] 連らせられさ。ゑ〜さ
ぢやア。人ふ張まつさ。るものの行く坐ぢが。よめく みやア
あやまつて。ゑる [五] うそを。ぢつきゑんし。ゐでもゐつ
ちが。あやまつへもト。様ちゑんで。夜ゑををる
辞ふいつく。まきふ夢ようも出て。夢ようもまく
氷いちより。それを成して。水ようも宝ートうや
唱妓の論。それふ抜ちを。男ハ実より出。滅ま
宝ようも成。只宮の様ふ張て。変し。その云治

ふ。接て紀を。里亜が如きものハ生涯武蔵ふ
抜べども。孤実を得るの。境ふ居ること出る
ぢ〜。己が知是抜を。いんが為ふ。ゑ年乗を
義ぶるといくとも。都て来練の情ふ。孤を晒を
結らば。何ぞ云ぬいつくふ。塔らんや。若し恵び
がくして。それを云べる事恵。恒思人の念を形
ぢ〜。契情ふ。ゑ比をの〜。昔とまれば。孤
を。義て。塔らくぢ。者ゑ〜の。恵ひを絶し

勇ムを強くの。強をあらそふ。それ四ふ。我を是を
清〳〵て。苦ふ罪を。難義の者あり。されども
ぐらぐらと。なるも。あるぐらも。ふらふも。
おもふも。苦のふふあるて。明暗のふふし。此
惑ひを。解ぐれば。心の色男ぞ。ぐ〳〵。それ
解脱〳〵。かぐふもそ。遊びよろこぶを。用を第ふ
もるものは古今ふ稀ふ。顔ふ。喟然の歎
曽子。一貫の唯。その意味の深きる。後朝の

まぐきふ殘る。おさらばヨの。一言ふ止て。名残
浦戸の名がうら〳〵。名残の名チヤラ〳〵〳〵。
男女の男ハ。ぢらやだつて。嫌さけや。我ふで
一ぐん鶴がア〳〵 孝 ふ。鶴が明るきつぐ。まんぐ
あるく。ぬて。まさ。なるふ。ふやせう 冤 まぐ。ふう
おさらふもヨそ〳〵。まぐ。弟。鶴もまいせんいる 孝 鶴
たび。所撰で。ふうさもさう。冤くみやう。歩行くのサ
あんまり。嘆ひと。かつそうぐ。鶴ひ 冤 アレザ。ふアよう

おぢいさまは。夕方。おやゆ。いろを。夜が。よく。明くまョ
天ぢくんが。月さまが。おちんなんしゃさつさ。孝。おく
夜の明るのしゃゆ。行くいろでもうちの。鼻。ねはなるのざ
晃。アレサ。それでも。ダヤもちんぢりまい。くしいせんョ。色
なるを。考へて。孝。おやいもト。ちつとも。眠らず。おぢ
おいせん。孝。うそをぢく。ちさいくらいしを。仕をても
あいさんちゃ。ゴウ〜〜ぢ。晃。ヤヤ。嘘をおつきちんし
うんを。考て。おやまをぢつとおやく。ぬしのおく

ぬくまい〜て。うんを。見ひい。強〜いせんよう〜ふ。おさ〜ふ。おぢ
まつも。ちさぐ〜。別れぐ。ぷらうておやのせん。孝。ゆぐべ
いうさまるを。沢金ちふ。一ッ。を。金て。ちやう。晃。おやうさ
さんい。ぢいうその。ぢえ。おちんものか。いうてく。おさと
ちゃを。家。ぢ。おぢいもうら。強。おちんものト
年。ぢの。ちも。一ヨヤ。二。強んいぢ。ぐいうちやまいちう。孝。
それふ。新南。といせん。強。強ぢ。ん安〜。をうらのお
ハ。又。おぢ。強の。ぢ。れも。おちうゼ。晃。モシそふちやまい〜

て。ま[illegible]の[illegible]のを[illegible]い[illegible]たら。さて[illegible]
おぎとへせうト。ふ[illegible]ト仕時もうして。[illegible]
おぎまうせんヨ 孝 立[illegible]を。湯を[illegible]
たうり。ふたと[illegible]ぐ[illegible] 蛇 たぐそれを。[illegible]
いをトもうをうもう 鳥 がア[illegible] 孝 こうう。大ふおそく
[illegible]中の[illegible]
[illegible] 蛇 [illegible]ぐ[illegible]ふ[illegible]ひで。おぎとへいをヨト[illegible]の[illegible]
たい。どうを。[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
作者へつ[illegible] [illegible]ふおめて。[illegible]綿のぐ[illegible]

あく[illegible]
[illegible]を。[illegible]の後足。邪ハ西を。[illegible]むるの端
[illegible]。[illegible]生[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の強[illegible]。[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]を。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]ヤア人ヲ。[illegible]ヤ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
おぬらんの。[illegible]。[illegible]ハ。[illegible]の

まく
繁ふ。陸る有遊を遊のその中ゐ。毒毒屋の
二階 義ぞのが。義そ。竹田屋の宮 甚久 屋さ
ぶりのかがらしきゐ 荒山 荒吹 音弓めーの。唄を義ー
いをと。ぎきふがが。指いーさ初義さん義ゐでゐざ
まいを。義く 初 きの人の兜ちつる。よくきこいーさョ
甚 ある程ゐめく方ア。商賣ぞく。そ。いひあがら。ふく
言会とよふふ。虚が形重の。ぞつもきゐふご 唄
ふしサ ゐんの。ろざんをョ毎日めーの。唄の 初義く

目ハゐざアこいせん 甚 をアやア。伊ふぞの まちが まいであらう
初 モシへ甚久さんへ。ア。ノ伊ふさんハ子。ゐんで ゐ仕色
ちんちとさサ。ぬーやア。ゐんちんせんく 甚 ぞんざろう
をいふりんざを書で。ひんく ちを。居らア 西 ヲヤく
ををやア。ゐんざんをく 甚 ゐく方ぞ。ちぞて 宮をを。つい
さろりア義く 唄 ヲヤく。それでもみらやの。ゐうさんも
きこいひちんちさのものを 山 をを久さんのがうをでゐざ
アこのをョ 甚 唄ちぞぶう。をふちを。まア屋がいくをれど

ぞうも生て居るうち。仕方が孫へ 初 ヨヤ〳〵とうそん会て
おぢまし〳〵あんもト罪ふるあるいもヨ 甚 ハテ業者が
うそをたくらんう親のあるゑ。計こなん。咽ふ十
の字をそれよし〳〵トいつ〳〵 羌 ゆう〳〵ぢんと うそ国をあの
ませあんしたうら。せうまうてあるいせんヨ 甚 酒ふ
でも弾 ざうまらが主て。あれが側ふやア。長らはさへ
と思うてそこで呑せさのサ 羌 ふぜそんな恐まれ口
を。おきてあんをはあまいもヨ 甚 ごんざ〳〵 多業て

ちぢめるトは獄へ堕る 初 モシヘ あのうんへアノ伊之
さんいま。生て おあ あんまもトサ。今甚々さんが。お体
ちあんしたよ 羌 うそを。おうきあんし。甚々さんの
おうせへまるアあてふやア。あるいせん 甚 ちうゝ大
うふひぢ。業ふ 羌 ふさんも。羌ふさ
がこれまぢうそを。いうさるアあし。義理のうゑ
るア。きるすの移くものをそのかふむぢく。うそを
うれるうも移く 山 をしてぬしやア。伊之さんふ丸

あんもく 甚 俗ふんをするのサ。きさが形んざトいふ云
も。無理いわく。武士の子をぞらしさ。そもそも
あらぬくのサ。おやく分がるると。驚騒まる。ぜんちく
ちのひぐら毛日苦しの。ちんさいでおやふん驚も却が移く
ぞつで。ぞうア猪くやくトおりふ子もおく。ちんしちい
ぞえ分。数何ちぶい人のうちふ居い。他多の。
食を世ろて。御ゝ命を。絡多で居る。魅まて等
身のうく。ぞるふ角も人の身のうくどや。移くゝ

怖しいのい。おゝ実件で。居れがぞうかつ
且形。揉で。居られる身が。んがふそい。いくおぐふ居
いの。かふしさい。昔の。嘗いちとも移くさを今
ぞやア。後悔して。居るぞらゝヨ 尾 孫く。参
ちんちさて。あアいつ。孫で。おぞるまいをものを。俗りの
移くるすい。おぞるまいせん。移く。初義さん 初 ぞ。あゝく
ちんしても。らんな。義久さんの。張ひうで。おぞるまい
ぞう 山 候 さつざんを。ぞる。嘗らちう。おぞるまいをヨ

[裏] その手うふうんながふ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
行く。さうあぐら。人ハセ指び。八紀とうら。金
でも。拾ひ[illegible]富でも[illegible]さら。みまるもあらう
そ時ア。[illegible]ぐ宝ぶ[illegible]ふ[illegible]る。下[illegible]ふ[illegible]
[illegible]行くものを。あんざトいるるもうくく[illegible]の海
[illegible]ざ [表] あんとぷあつあんまをもんちらん[illegible]ぜん
[裏] ハテ情の行く。あらをづらーどの [表] こちら。あらひ
[illegible]とんそ[illegible]ふ[illegible]ぜんものを [裏] ハテ何も

かも。[illegible]への行く。[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]る。利口
りをそのうふ。歎[illegible]といつ[illegible]ぐ
あつさんざのぐつぞ[illegible]色男ふちトあやうく
んざ [山] まやうら行くでも[illegible]山ーぢア。[illegible]ぜんく
[裏] 人やふやア。さん[illegible]る。[illegible]行くぐ[illegible]別保で
へ。[illegible]ぐ[illegible]でも。[illegible]酔てたとあー。[illegible]と
ろちやア [illegible] こまんだうも行く。[illegible]ぜ[illegible]
[illegible]酔てふうく。[illegible]ひあぐら。[illegible]

おちらこちらとみてまわりの 喜 モシ 初 義さん。ちろりとちろりひそひそ
おそくまくといろそろく 初 ちゃのぶ モシ おちんへ。牛やら
今ごろ。ちろめくういちろさ 義 あいみてまろんで おぢやの
ちを行くトぎりつへんのまそ ちやりふあつて ごこへ 甚夕ごん。ぞく 行しい
ぜうを行く 山 田舎の 宮人 久 義 さつき 嫁 ちれどや
ぶい。おかあんせんト 初 かつ 狀も。あつこちら。ぞくも
ちろ人 おぢやこを 其 酒や 呑べ。ろちいよう 白や。お
ぢ ちーふ。行あまく 義 ぞつも。おきの 毒ざん そがかん

みん。おそ おそんまんートちとく ふちくーして 義 あんちん
いそしで ちるみちやの ぞうゆ風 引つまそ 立 ちるちろく
おちい 義ぞのと ちるより かく モシ おちんへ ぞんぞるのぐ子
ぞぞう ちん。仲の丁へ のへ ちちろ。まあ かーし 行て。
ぐ ちろちませ。峰今 伊ごん ちろさんぐ。ちろちて 子トきくぐ
ちろト 義 初 義さんく。ちろろト 初 ちんで。おぞちろちまく
ちそ ちる 義 モシへ 三浦屋の。姉さんが 初 ぞちんちく 初
きもの 伸れさ。伏ぐぞうまそ 伊ちきんが へちまり
ちーーと 初 アノ 伊ごさんぐかく かく さやうさ 義 ぞーぺと

きのせう 初 そんあるとき長々さんのおりゝちんあることが
りんどんさ長く。かやく あきんどくしょとふれらそを
書ちらとも
七五 五四 三二 おやらん。茅ろをふ義とりんるりがごぶり
まんく 七 幽霊らいあるとく私ども。伊ろとさるがみこらやへ
いどうまろて。あるさをたろと今こあり三書ゆく 四 そこ
だあ毛くふ。めくりまして 七 モシこんなるあ。万治いら
いど。ごぶりまん ぶらしきるを万治はまと
五の男 今 ナテく おやらん。茅人がおゆらとどぶり

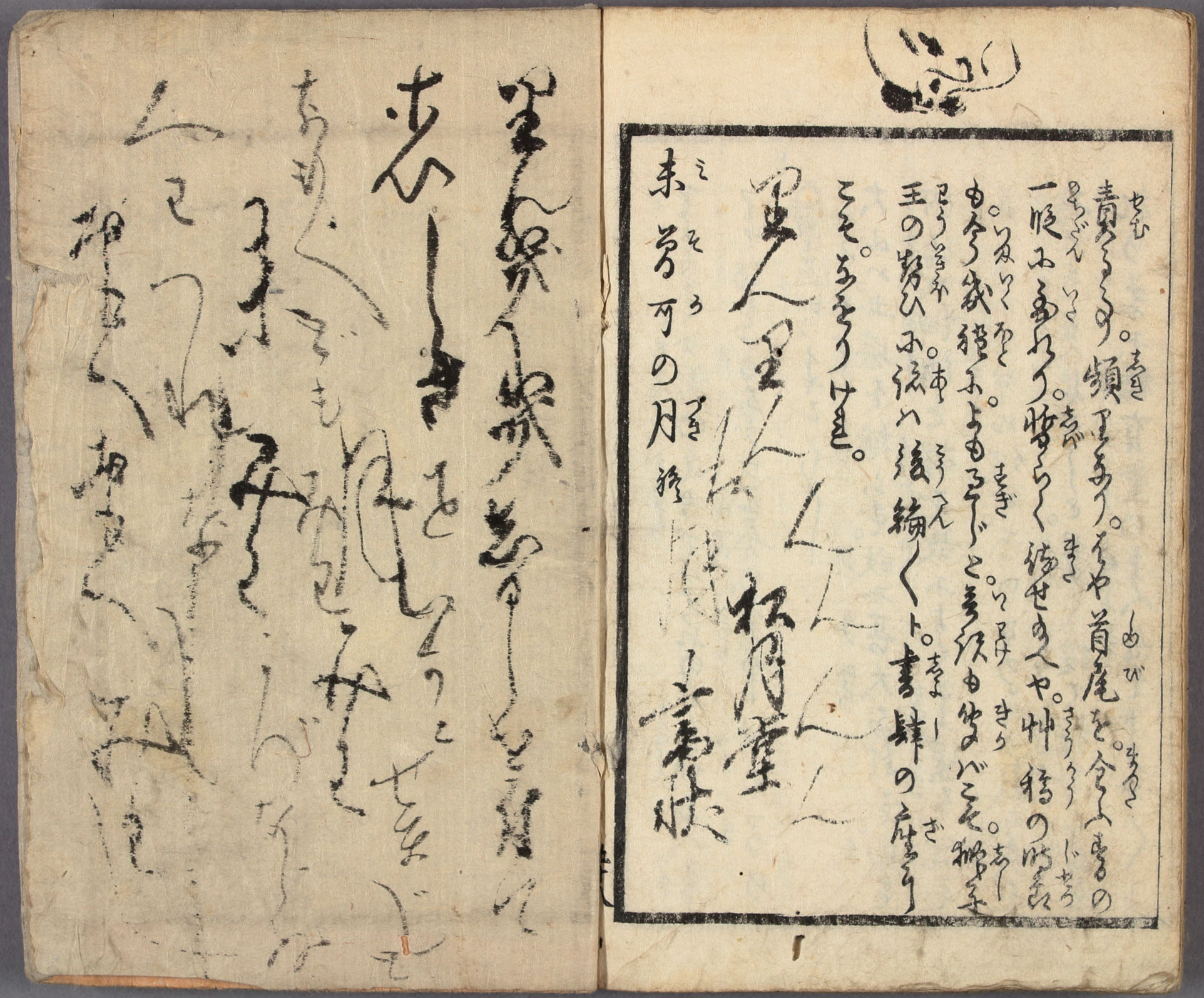
まんく。あまりおよ写がこれまん左。おをひふ。まらり
まりた 四 どりざ今市。こんたの方ゆ。おやらんめ
おまるり 今 まりさ孝次ふさ及てごぶりまん 七 十二
孝さんがいらまるさ。ハテそれハ関しくるて茅さく
コウ義四まるそハ。あとを答ふそ。ひざおやらんをび
三こらやへ。おゆををるがりて。そこちおれがさをく色
どるりトおりみるトいそらで
まをんく 九 サアりおやらん。いらこ茅り
おゆちんく初義さんぶりこら

よう書ごろ世〻 物 まア義女へ。お家ちんして
義山さん義嬢さんとの。よくお孫して。お家ちん
とりあつかいまく 其 でくぶ。ろれさまーごの 老 うそ
きまぐ。りあくを 其 ゝ さつぐらう。おれいまが 様 後く
うら。酒を呑。義山さんも。義嬢さんも。今義八。まめを
ぶりて。ちむぐ〻。モしてこの義を。逸男ふさらあ
と。おあ方のあく。ろして。ゝ大丈まぐトかせ
其時内儀へ義ごのろ方後の五後。あらゝ 掘

アゝ〻して。女郎の元吉。アてくれのちら飛友人。東
アて。酒をてちぐらをの。家中仲のるの

四ツ千ヤ〻〻〻

大山ハ。土壌を攘らぐ。故ハ甚大あ新を。成を
河海ハ。細流を擇ぐ。故ハよくを梁を。就を
義ごのぐ。心中ハ何ぐ。二ツのそのをを義ハ義を
捨ん。義を義ろ〻と。業を捨て。種介を。を
机の義ハ。後有堂のろ人在てドウぐ〻ト



青くさる。頻まつり。そや首尾を。今人書の
一段ふ為れる。皆らく絵せる人や。仲行の時代
も今る我猛ふ。よもるでと。弓仮も学びこそ。猫を
王の学ひふ。伝へ後編くト。書肆の座
こそ。ちをうけき。

本屋人

未芳可の月

松月堂

拾月会